

## 書く力を育てる指導の工夫

### —説明文から新聞作りの学習活動へ—

うるま市立南原小学校 浦 崎 民 子

#### I テーマ設定の理由

国語科の目標については、「国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。」と学習指導要領に示されている。すなわち子ども達が主体的に対応しながら生きていくには、お互いの立場を尊重しながら、自分の考えや気持ちを伝える力を育てることが国語科に求められている。

本県においては、全国学力・学習状況調査の結果から「基礎的・基本的な知識・技能」の定着を確認する問題において、国語・算数の既習事項の定着が不十分であることが明らかになった。また、「思考力・判断力・表現力や応用力」が必要とされる活用問題においては、正答率の低さが顕著にあらわれた。さらに、記述式問題にも課題があること「学ぶ意欲の低下がみられる」などが指摘されている。

本校では、単元テストや学力テストの「読む」「書く」の領域において正答率が低く、説明文の読解を苦手としている児童や、問題文を正確に読み取れないために、問題が解けない児童もみられた。「読む力」「書く力」は各教科においても重要な基礎であり、確実に身につけさせたい力である。

本学級の児童も、「書くこと」の基礎的・基本的な力や豊かに表現するための力が十分とはいえない。

これまでの私の説明文の読解指導や作文指導においても、段落指導や要約指導を中心に書く活動を重視して行ってきたが、依然としてクラスの半数以上の児童が、「何をどう書けばよいのか分からない」「書くテーマが見つからない」と文章を書くことに苦手意識が強かった。その原因は、読解の指導不足、文章記述の基礎・基本の定着の不十分さ、何よりも日常的に文章を書く習慣が身に付いていないことが、原因だと考えられる。そのことから、文章を書く意欲を育てるために、日記指導そして新聞作りから取り組んでみようと考えた。

国語科のアンケートを実施したところ、「新聞作りは好きですか」の質問に対して「はい」と答えた児童が80%で「新聞作りをしたことがありますか」では、92%の児童が「はい」と答えた。書くことは、苦手と答えている児童も、新聞作りに興味を持っていることが分かった。これを踏まえ、新聞作りを通して書く力を育てることができるのではないかと考え、まず、レディネスとしてゴールデンウィーク新聞作りに取り組んだ。しかし、文章構成や小見出し、要約などを理解した新聞を作成することができなかった。好きだと答えているにもかかわらず、身近な表現活動である書く力が身につけていないことが分かった。このようなことから、何をどのように書けば良いのか、基本的な書き方を指導していく必要があると考えた。

そこで、基本的な書き方（5W1H）を日記等で繰り返し行う。さらに、説明文の学習で文章構成、小見出しの書き方、要約のしかた等を習得させ、新聞作りの単元につなげる。相手意識を持ちながら新聞作りをするという一連の指導を通して、伝える楽しさを味わわせながら、書く力をつけたいと考え、本テーマを設定した。

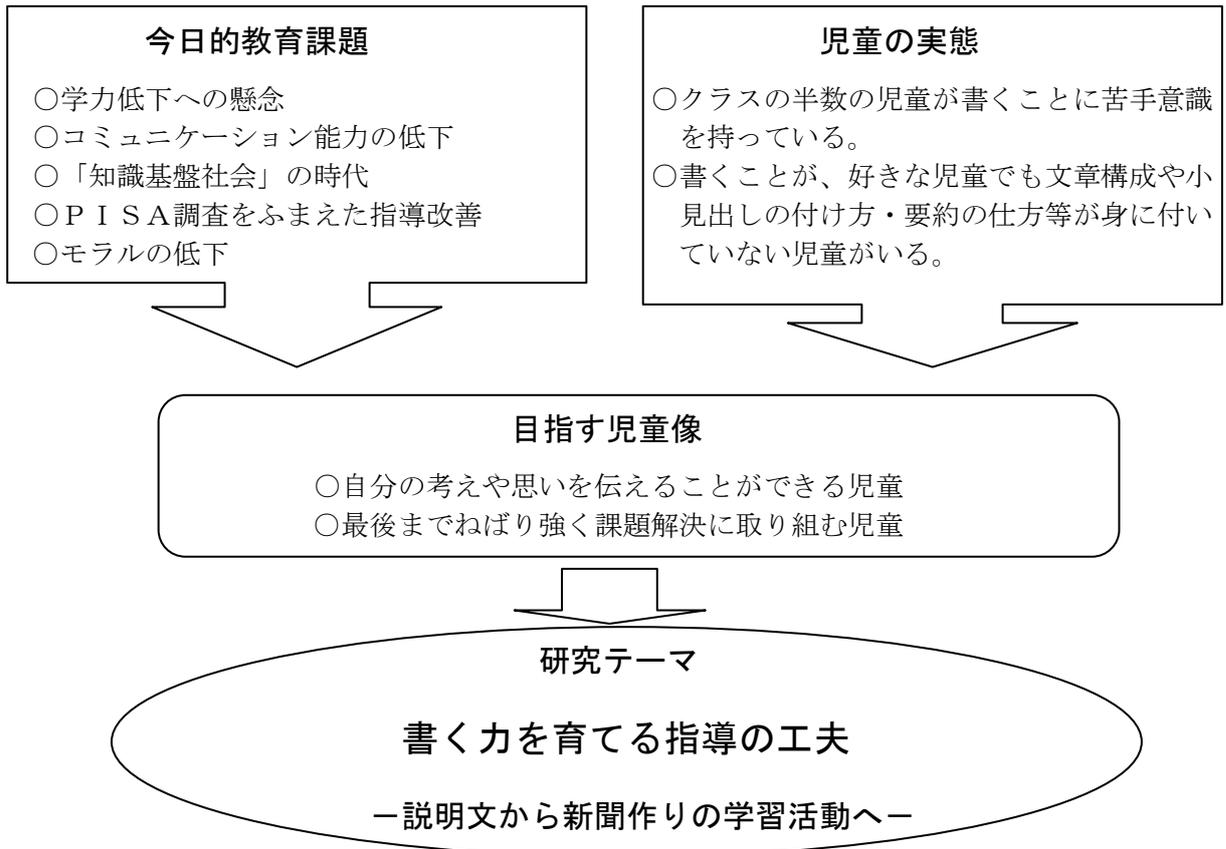
#### II 研究目標

説明文の基礎的・基本的な知識・技能の定着を図り、日記指導と新聞作りを通して書く力を育む。

#### III 研究仮説

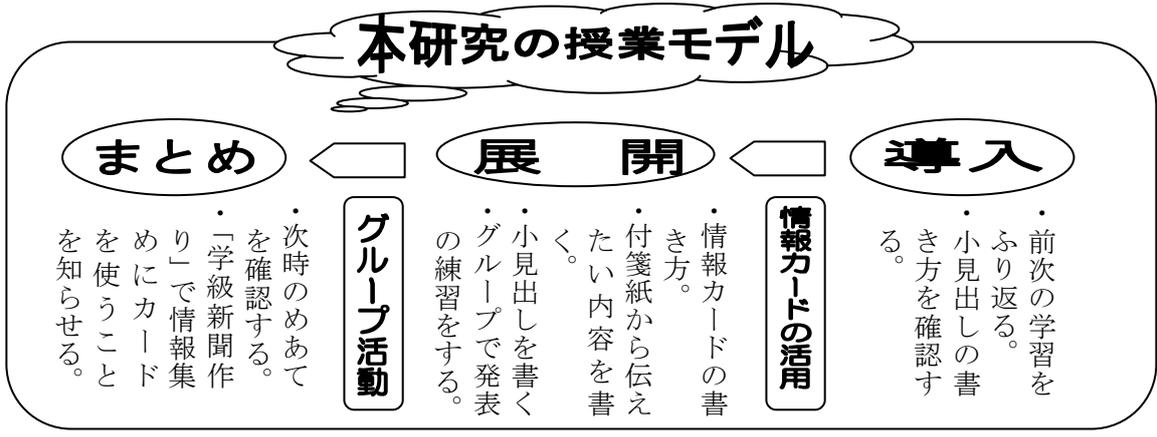
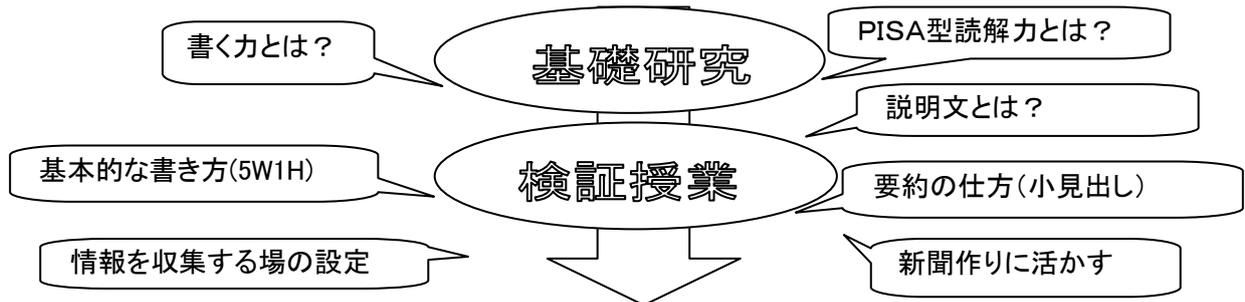
説明文の読解や新聞作りにおいて、情報カードを活用させることにより、文章構成や小見出しの付け方の基本を習得させることができ、書く力が育つであろう。

#### IV 研究の全体構想図



**研究仮説**

説明文の読解や新聞作りにおいて、情報カードを活用させることにより、文章構成や小見出しの付け方の基本を習得させることができ、書く力が育つであろう。



## V 研究内容

### 1 国語科における各領域の目標

国語科の各学年の目標は、各領域に対応して、次の3項目を示している。「A 話すこと・聞くこと」「B 書くこと」「C 読むこと」の各領域の目標を関連付けるとともに、指導が調和的に行われるような配慮をする必要がある。また、指導の視点とする。

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
A 話すこと ・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>事柄の順序を考えながら話す能力</li> <li>大事なことを落とさないように聞く能力</li> <li>話題に沿って話し合う能力を身に付けさせる</li> <li>進んで話したり聞いたりしようとする態度を育てる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>筋道を立てて話す能力</li> <li>話の中心に気を付けて聞く能力</li> <li>進行に沿って話し合う能力</li> <li>工夫しながら話したり聞いたりしようとする態度を育てる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>考えたこと伝えたいことなどの確に話す能力</li> <li>相手の意図をつかみながら聞く能力</li> <li>計画的に話し合う能力</li> <li>適切に話したり聞いたりしようとする態度を育てる</li> </ul>
B 書くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>順序を整理し、構成を考えて文や文章を書く能力</li> <li>進んで書こうとする態度を育てる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>段落相互の関係などに注意して文章を書く能力</li> <li>工夫しながら書こうとする態度を育てる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>考えたこと、文章全体の構成の効果を考えて文章に書く能力</li> <li>適切に書こうとする態度を育てる</li> </ul>
C 読むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読む能力を身につけさせる</li> <li>楽しんで読書しようとする態度を育てる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中心や段落相互の関係を考えたりしながら読む能力</li> <li>幅広く読書しようとする態度を育てる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>内容や要旨をとらえながら読む能力</li> <li>読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる</li> </ul>

### 2 書く力について

#### (1) 書く力とは

書く力とは、文字や文や文章を書く能力のこと、また、書くことで思考力を育てることにもつながると考える。書く活動を通して考えが整理され、伝えたいことが明確になる中で考える力が身につくのではないだろうか。そのためには、子どもたちの発達段階に合わせた指導が必要である。さらに、身についた力を伸ばしながら繰り返し学習し、定着させていくことが大切である。

#### (2) 書くことの目的

書くことは、表現手段の一つである。表現することは、内在する自己の表出である。また、自分自身を深く見つめることにもなる。このことが、自己の確立に大きな関わりを持つことになる。

そして、自分のみならず、他人の行動や考え方、自然の見つめ方や社会のあり方までも考えるようになる。書くことは、自分を変えることにもつながる。さらに、書くことにより自分自身が何を考えていたのかがはっきりわかるようになる。

書くためには多くのことを考えなければならない。何を書いたらいいのだろうか、どう書いたらいいのだろうかと思いをめぐらす。言葉を使って考えるところに思考力の育成ができると思う。

#### (3) 情報化社会の中で書くことの大切さ

現代の子ども達は、パソコンやメールの影響なのか、自分の感情を絵文字でしか表現できないことがあり、仲間内だけにしか理解できない略語を多く使う傾向が、強くなっているように思われる。また、単語を羅列するだけで意思疎通を図っている様子も、よく目にする。その一方では、手紙や案内状などの改まった文章を書く機会が減ってきている。こうした傾向は、子どもや若者の世界だけにとどまらず、大人社会にも広がっているように思われる。

書くことの意義や役割を実感しにくくなってきている現代だからこそ、これからの国語科では、発達段階に応じて、「何を」「どのように」書けばよいのかという技能や能力を系統立てて指導しなければならない。

一時間単位の授業で、書くことの技能や能力を確実に習得することは、国語科技能を磨くことと

同時に、日常生活に生きて働く国語力を身に付けることにもつながる大切なことである。

(4) 各学年における「書くこと」の指導事項

学習指導要領における第3学年及び第4学年の「書くこと」の内容

3領域の内容については、言語活動例を内容の(2)に位置づけている。これにより、(2)に示している言語活動例を通して(1)の指導事項を指導することを一層明確にし、各領域の能力を確実に身に付けることができるようにした。

「書くこと」の指導事項内容の(1)は、次のように構成している。

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
課題設定や取材	ア・経験したことや想像したことなどから書く ・題材に必要な事柄を集める。	ア・関心のあることなどから、相手や目的に応じて必要な事柄を調べる。	ア・考えたことなどから書くことを決め、全体を見通して事柄を整理する。
構成	イ・事柄の順序に沿って簡単な構成を考える。	イ・文章全体における段落の役割を理解する。 ・段落相互の関係などに注意して文章を構成する。	イ・文章全体の構成の効果を考える。
記述	ウ・語と語、文と文との続き方に注意し、つながりのある文や文章を書く。	ウ・書こうとする中心を明確にし、理由や事柄を挙げて書く。 エ・文章の敬体と常体との違いに注意しながら書く。	ウ・事実と想像、意見などを区別する。 ・目的や意図に応じて書いたりする。 エ・引用したり、図表やグラフなど自分の考えが伝わるように書く。
推敲	エ・文章を読み返し、間違いなどに気づき直すこと。	オ・文章の間違いを直し、よりよい表現に書き直す。	オ・表現の効果などについて、工夫したりする。
交流	オ・書いたものを読み合い、感想を伝え合う。	カ・書いたものを発表し合い、書き手の考えについて意見を述べ合う。	カ・発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合う。

(5) 本研究における言語活動との関わり

① 「書くこと」の言語活動例

内容の(2)は、(1)の指導事項を指導する際の具体的な言語活動を例示している。

詩や物語など創造的な内容について書くこと、説明や報告、紹介や手紙などの日常生活で活用されるものを書くこと、学級新聞などに表すことなどの言語活動例を示した。

各学年の言語活動例は、次のとおりである。

第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
ア 想像したことなどを文章に書く イ 報告文や観察、記録文を書くこと。 ウ 身近な事物を説明する文章などを書く。 エ メモにまとめたり、文章に書いたりする。 オ 伝えたいことを手紙に書くこと。	ア 身近なこと、想像したことなどを、詩を作ったり、物語を書いたりする。 ① 疑問に思ったことを調べ、報告文、学級新聞などに表したりする。 ② 収集した資料をもとに、説明する文章を書く。 エ 依頼状、案内状、礼状などの手紙を書く。	ア 経験したこと、想像したことを、詩や短歌、俳句にしたり、物語や随筆などを書いたりする。 イ 課題について調べたことを、意見を記述した文章や活動を報告したり文章に書いたり編集したりする。 ウ 多くの人に伝えるための文章を書く。

本研究は、説明文の単元を扱うために、おもにイ・ウを重視して指導過程に組み込んでいく。また、本市でも下記のように、「言語活動の充実」を重視した教育活動を展開しているため、更なる取り組みが必要である。

② 平成21年度 うるま市における「言語活動の充実」について

各学校の教育課程全体で「思考力・判断力・表現力等の育成」を図る。国語の言語活動で説明の仕方、書きまとめる言語能力等を育成し、各教科の目標を実現するための手立てや方法を身に

付けさせる。特に、5つの言語意識（相手意識・目的意識・場面意識・方法意識・評価意識）を持たせながら、「言語活動の充実」を図ることをねらいとしている。

<p>☆「言語活動」のねらいは 「思考力・判断力・表現力」の育成 「言語活動の充実」は、現行学習指導要領が重視している「生きる力」の育成であり、「生きる力」としての「思考力・判断力・表現力」等の育成がねらいである。 また、言語の能力は、他者や社会とかわる上でも必要な力である</p>	<p>各学校の教育課程全体で「思考力・判断力・表現力等の育成」を図る。</p>
<p>☆「具体的な学習活動」は ①体験から感じ取ったことを表現する。 ②事実を正確に理解し伝達する。 ③概念・法則・意図などを解釈し、説明したり、活用したりする。 ④情報を分析・評価し、論述する。 ⑤課題について、構想を立て実践し、評価・改善する。 ⑥お互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる。</p>	<p>☆「言語活動」の中核となるのは国語科 「言語活動の充実」を実現するために国語科の役割を明確にする。国語の言語活動で説明の仕方、書きまとめる言語能力等を育成し、各教科の目標を実現するための手立てや方法を身に付けさせる。 「5つの言語意識」を各教科でも指導計画に位置づける。 ① 相手意識 ② ①を意識した目的意識 ③ ①②を受けた条件や場面意識 ④ ①②③を受けた表現や理解の方法意識 ⑤ ①②③④を受けた評価意識（他者評価も含む）</p>
<p>対 応</p>	<p>☆学習指導計画の作成 授業時数の増加された国語、算数・数学、社会、理科等の教科「学習指導計画」に「具体的な学習活動」を意図的・計画的に位置づけ、実践する。 授業増加は、「言語活動の充実」のためであり、その指導過程と結果において思考力・判断力・表現力等を育成することをねらう。</p>
<p>OPISA 型読解力 「情報の取り出し」「テキストの解釈」「熟考・評価」 ○科学的リテラシー 「科学現象の描写、説明、予測」 「科学的調査の理解」「科学的証拠と結論の解釈」 ○数学的リテラシー 「再現クラスター」「関連付けクラスター」 「熟考クラスター」</p>	<p>☆何が言語活動の充実に対応するか明確にする 校内研修等において、各教科の学習指導要領に掲載されている学習活動のどの活動が「言語活動の充実」に対応するか共通理解を図るとともに実践できるようにする。</p>
<p>☆教育課程への位置づけ 各教科の教育内容として、記録、要約、説明、論述といった教育活動に取り組む。</p>	<p>☆学校全体における言語環境の整備 ①教師は正しい言葉で話し、正確で丁寧な文字を書く。 ②印刷物等において、用語や文字を適正に使用する ③教師や児童生徒、児童生徒相互の話し言葉が適切に使われる状況をつくる等</p>

『教育課程で充実すべき重点・改善事項』参照

(6) 4年生に付けさせたい力

① 中心点を明確にして書くこと

子どもの文章には、思いつくまま羅列的に書いたものや書きたい中心がはっきりしないものなども見られる。そこで、記述前の構成の段階から中心点が明確になるように段落と段落とのつながりや相手や目的を常に明確にもたせながら書かせるようにする。その際に、書きたいことの中核が構成のどこにあるかを常に意識させる必要がある。また、「読むこと」の内容「説明的な文章の解釈」に目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。」と関連させることによって指導の効果を上げるようにする。

② 文章の良いところを見つけたり、間違いなどを正したりすること

1・2年生で身に付けた「文章を読み返す習慣」の上に立ち、さらに主体的に自他の文章を評価する能力や態度を育成し、記述後の推敲にとどまらず、記述前、記述中を含め、書くことすべての過程において自己批評を行いながら学習を進めさせたい。

(成家 亘宏 青山学院講師)

### 3 説明文について

#### (1) 説明文とは

相手が知りたいことや疑問に思う事柄について、情報や知識を分かりやすく伝える文章である。つまり、虚構ではなく、事実に基づいて書かれたものである。説明文は通常、ある事柄について、問いを設定し、その問いに答えるという形で記述される。したがって問いの内容や、事柄の仕組みなどによって説明の方法は多様なものになる。

〈事実に基づいて書かれたもの〉

○説明文 ○観察・日記文 ○伝記 ○報告文 ○手紙文 ○感想文 ○意見文  
○紀行文 ○評論文 ○批評文 ○解説文など

#### (2) 説明文の指導の目的

説明文の目的は、読み手に伝えるべき事柄を分かってもらうことにある。そのためには、読み手が必要としている情報を、相手の知識や関心に即して理解するとともに、分かりやすく表現するための技術を身に付ける必要がある。それは日常のコミュニケーションにとって必須の言語技能である。このため、小学校低学年から中学年に至るまで、発達段階に即してより分かりやすい説明のしかた、また説明文の理解のしかたについて学習者が工夫するよう習慣づけたい。

説明文の理解に関する学習と表現の学習とを連動させることも考えられる。自分が何かを説明するにあたって、どのような問いを立てるか、どのように絞り込むかという経験を積むことによって、理解はよりスムーズになるだろうし、読んでいる説明文の問いの立て方のパターンは、表現しようとする際にたいへん参考になる。「まねをする」ということは、表現学習の中で有効に活用されてよいと思われる。

#### (3) 学習指導要領における第3学年及び第4学年の「読むこと」の内容から

① 「読むこと」の指導事項内容の(1)は、次のように構成している。

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
音読	ア・語や言葉の響きに気を付けて音読する。	ア・中心や場面の様子が分かるように音読する。	ア・自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読をする。
効果的な読み方			イ・本や文章を比べて読み、効果的な読み方を工夫する。
説明的な文章の解釈	イ・時間的な順序、事柄の順序を考えながら内容の大体を読む。	イ・中心となる語や文、段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読む。	ウ・内容を的確に押さえて要旨をとらえる。 ・事実と感想、意見など自分の考えを明確にしながら読む。
文学的な文章の解釈	ウ・登場人物の行動を中心に想像を広げながら読む。	ウ・登場人物の性格や気持ちの変化、情景など叙述を基に想像して読む。	エ・登場人物の相互関係や心情場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめる。
自分の考えの形成及び交流	エ・大事な言葉や文を書き抜く。 オ・文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合う。	エ・要点や細かい点に注意しながら読み、引用したり、要約したりする。 オ・文章を読んで考えたことを発表し合う。 ・一人一人の感じ方に違いがあることに気づく。	オ・本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりする。
目的に応じた読書	カ・楽しんだり、知識を得たりするために、本や文章を選んで読む。	カ・いろいろな本や文章を選んで読む。	カ・複数の本や文章などを選んで比べて読む。

おもに指導事項のイ・エ・オを重視して指導過程に組み込んでいく。読むことにおいても、目的に応じて段落相互の関係をとらえることを求めている。また、中心となる語や文に注目して要点をまとめたり、小見出しを付けたりするなど、内容を整理することが大切となる。

また、「読むこと」の内容「エ・オ自分の考えの形成及び交流に関する指導事項」においての要約とは、目的や必要に応じて、話や本、文章を短くまとめることである。元の文章の構成や表現をそのまま生かして短くまとめる要約と、自分の言葉で短くまとめる要約がある。要約は、要約する目

的や必要に応じて元の文章のどの部分を取り上げるかが変わってくる。要約する目的を明確にし、分量や時間、元の文章の構成や表現の生かし方などを考え、要点や細かい点に注意しながら要約する経験を重ねることが重要である。

(4) 本研究における言語活動との関わりについて

① 「読むこと」の言語活動例

内容の(2)は、(1)の指導事項を指導する際の具体的な言語活動を例示している。

物語や詩、伝記などの創作や、説明などの多様な本や文章を読んで感想を述べたり考えを表現したりする言語活動例を示した。

各学年の言語活動例は、次のとおりである。

第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
ア 想像を広げながら読む。 イ 読み聞かせを聞いたり、物語を演じたりする。 ウ 事物の仕組みなどについて説明した本や文章を読む。 エ 物語や、科学的な本を読んで、感想を書く。 オ 読んだ本について、好きなどころを紹介する。	㊦ 物語や詩を読み、感想を述べ合う。 ㊧ 記録や報告の文章、図鑑や事典などを読んで利用する。 ㊨ 記録や報告の文章を読み合う。 エ 紹介したい本を取り上げて説明する。 ㊩ 必要な情報を得るための、本や文章などを読む。	ア 伝記を読み、自分の生き方について考える。 イ 自分の課題を解決するために、意見を述べた文章や解説の文章などを利用する。 ウ 編集の仕方や記事の書き方に注意して新聞を読む。 エ 本を読んで推薦の文章を書く。

本研究は、説明文や新聞作りの単元を扱うため、おもにア・イ・ウ・オを重視して指導過程に組み込んでいく。

(5) 4年生につけさせたい力

① 段落相互の関係を考え文章の中心的内容を正しく読み取ること

4年生になると読む内容も高度になり、より正確に文章を読み取ることが期待されてくる。そこで文章の大体をとらえる段階から、文章の構成がどうなっているか、大事なところはどこかを考えることや筆者の主張や述べ方に目を向けさせることが必要となってくる。

したがって、段落の要点を抜き出したり、意味のまとまりごとに小見出しをつけたりするなど内容を整理することが大切である。また、意味内容だけを追うのではなく、接続語、文末、繰り返し語句(キーワード)などの言葉もおさえること。そして、形式的な指導に陥ることなく、子どもが主体的に文章の「中心」をとらえることが大切である。そのためには、子どもが学習に目的意識や必要感をもち「中心」を考えたり発見できたりするよう学習を工夫することが大切である。

(成家 亘宏 青山学院講師)

② 要約力を磨き思考力を高めること

要約は、文と文との関係、段落と段落の関係を読み取る事を基本とし、文章のポイントを確実に押さえる「確かな読み」の力を育成するものである。例えば、文と文との関係を考えるとき、各文の中からキーワードを探したり文末表現から筆者の考えを推測したりと一語一文丁寧に比較しながらキーセンテンスを見つけていく。また、キーワードを結合したりキーセンテンスを集約したりして要約していく。特に字数に制限がある場合は、文章全体を見渡し総合的な見地からどの言葉を残しどの言葉を削るか、どの言葉を選ぶかなど思考力を最大限に駆使しなければならない。

要約は、比較力や結合力、集約力、総合力等を確実に獲得することができる格好の学習材である。

(瀬川 榮志 中京女子大学名誉教授)

4 PISA型「読解力」について

(1) PISA型「読解力」とは

OECD(経済協力開発機構)によるPISA調査において、日本は「読解力」領域において、2000年(8位)、2003年(14位)、2006年(15位)という結果だった。この結果を受けて発刊された『読解力向上に関する指導資料—PISA調査(読解力)の結果分析と改善の方向—』(文部科学省)では、PISA

型「読解力」を次のように定義している。

自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、効果的に社会に参加するために、書かれたテキストを理解し、利用し、熟考する能力

そして、従来の「読解力」との違いについて次のように述べている。

- ①内容を理解するだけでなく、**活用・熟考する。**
- ②読むだけでなく、**利用・活用して自分の意見を論じる。**
- ③内容だけでなく、**形式や表現法も評価する。**
- ④文章だけでなく、**図やグラフ、表なども読みの対象とする。**

下線部が新たに付け加えられた PISA 型であると考えられる。学習到達度調査(PISA)では、情報の取り出しとテキストの解釈と熟考・評価の三つに整理され出題されている。こうした読解の領域や働きが、現代の社会的、文化的な生活において用いられているテキストに著しく拡大されている。これは、これまでの国語の読解力との大きな違いである。

## (2) PISA 型「読解力」の学びのプロセス

- 【情報の取り出し】◇テキストに書かれている情報を正確に取り出すこと（従来の読解力）
- 【解釈】◇書かれた情報がどのような意味を持つかを理解したり、推論したりすること（読む力・聞く力）
- 【熟考・評価】◇テキストに書かれていることを自分の知識や経験と結びつけること  
◇論理の整合性や表現方法など建設的に批判すること。（思考する力）
- 【表現】◇テキストを利用して自分の考えや意見を自分の言葉で書くこと。  
（書く力・話す力）

ここでの学びのプロセスは、情報としての文章を正確に読み、その内容を吟味して自分の読みを作り、その読みを他へ発信していくことによって、他と比較することで自分の読みや考えを高めていくようにすることが求められているのである。この中でも「伝える」ことの重要性を感じることができる。（白石範孝 筑波大学附属小学校教諭）

## (3) 国語科で育成する国語力と P I S A 型の読解力について

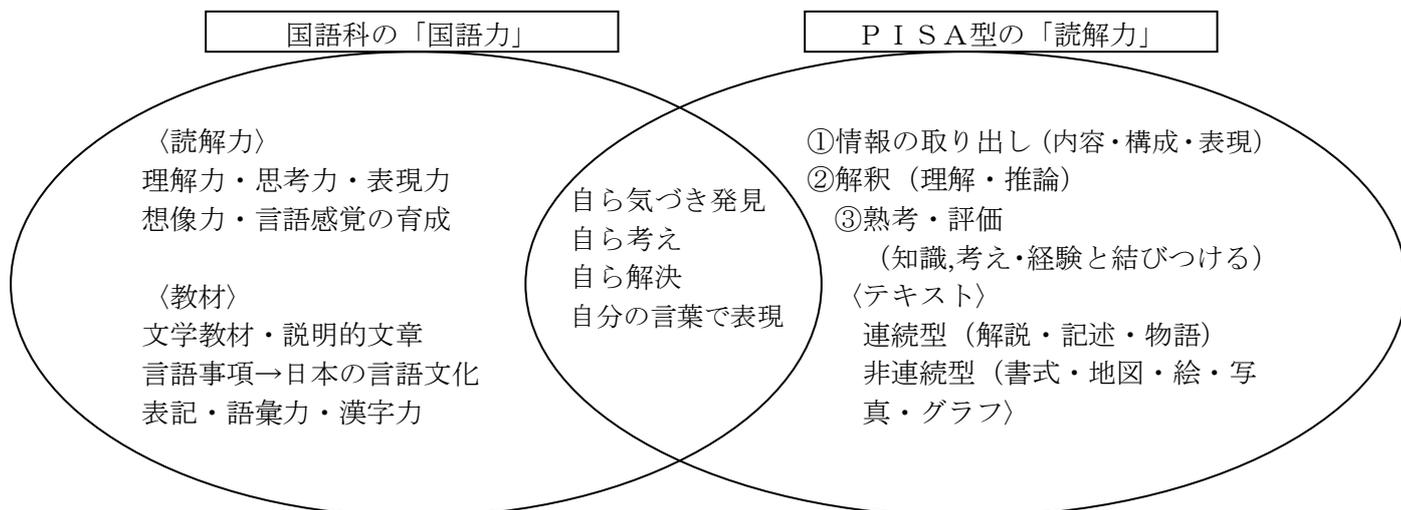


図1 国語科の「国語力」と PISA 型「読解力」

(新城トシエ 沖縄女子短期大学非常勤講師)

国語科の「国語力」では、物語文や説明的文章を教材として、理解力・思考力・表現力想像力・言語感覚の育成している。PISA 型「読解力」では、書かれた内容をテキストにとらえ、その中でもおもに、非連続型（書式・地図・絵・写真・グラフ）を基にして、情報の取り出し、解釈し熟考・評価して読解力をつけている。この国語科の「国語力」と PISA 型「読解力」において共通するのが、「自ら気づき発見し、自ら考え、自ら解決し自分の言葉で表現する」ことである。

国語でことばの力として、「筋道を立てて考える力」「情報を取捨選択する力」を身に付けること

が今後は重要になる。「課題提示・具体例・結論」といった筋道を立てて考える力は、国語で身に付けるべき論理性である。この国語で身に付けた力は、例えば算数の文章題を解くというような他教科の場においても、間違いなく生きるであろう。必要な情報と不必要な情報とを分けて考えることができるようになる。その上で、算数の数理をあてはめると、文章問題の解決につながると思う。

## VI 指導の実際

### 1 書く力を育てる日常的な取り組み

#### (1) 日記指導

相手意識をもたせて書かせることで、意欲が高まり、相手や場に応じた書く方法が身につく、書く力がついてくると考える。また、毎日の積み重ねのなかで、書き慣れて力がつく。日記の中からいい表現や新しく習った漢字、言葉をぬき出し、「言葉の玉手箱」にはり出したり、「よい文を紹介する」など意欲を持続させながら実践している。

はじめ	場面を大きくとらえたものやできごと (いつ、どこで、何をした)
中	一番書きたいこと (知らせたいこと、伝えたいことをくわしく) 五感を使って書こう(目・耳・口・鼻・舌) ・見たこと・聞いたこと・話したこと ・におい・味
終わり	自分の感想(考え)

- ①2冊方式  
(ノートを交互に提出)
- ②毎日点検  
・段落構成・5W1H  
・誤字脱字・句読点
- ③コメントを書く

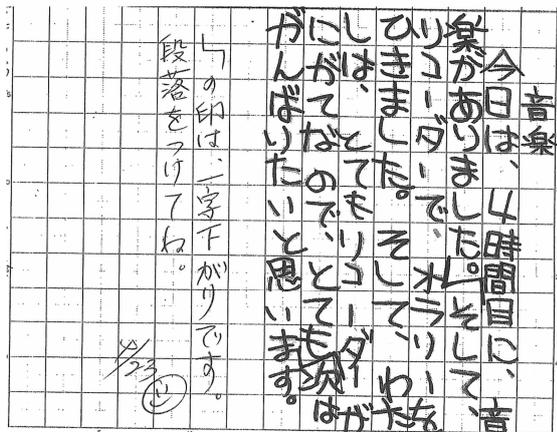


図2 日記 児童の記述例

- ・4月は、段落分けがまだできてない。
- ・「はじめ・中・終わり」の文章構成を意識させるコメントを書き込む。



図3 日記 児童の記述例

- ・6月は、書き慣れたことで、三段落構成して書けるようになってきた。
- ・符号などを意識して書くようになってきた。

### 2 新聞作りについて

#### (1) 新聞とは

新聞は、ある情報をほかの多数の人たちに分かりやすく伝えるもので、事実の報道や解説や意見など、さまざまな文種が混在している。学校生活における新聞作りにはいろいろなものがある。作り手によって分類すると、個人新聞、グループ新聞、学級新聞、委員会新聞、学校新聞などがある。

また、内容の点で見た場合には、身の回りの出来事を伝えたりする生活的な新聞と、調べたことを伝えようとする学習的な新聞とに分けられる。

## (2) 新聞作りの目的

新聞を作るときは、情報の受け手を設定したうえで、その受け手に伝わるように情報を収集し、整理しなければならない。したがって情報の送り手に必要な相手意識や情報収集の具体的な方法、情報の整理のしかたを学ぶことができる。

また、さまざまな文種が混在していることから、それぞれの文種の特徴を学んだり、身に付けさせたりすることができる。グループや学級で新聞作りをする場合は、割り付けや見出しなどについて話し合いが必要なことから、集団の中での協調性が育ち、連帯感が生まれることもある。また、話し合う力もつくことになる。

さらに、生活的な新聞作りの場合は、自分の身の回りをよく観察できるようになるだろうし、自分の属している集団を良い方向にもっていこうとする集団意識も生まれると思われる。

## (3) 新聞作りの意味

国語科の学習活動としての新聞作りには、次のような意味がある。

- ① いつも情報の受け手（読み手）だった児童・生徒が送り手（書き手）になることによって、創造の喜びを持つことができる。
- ② 日常生活の中の出来事や問題点に目を向け、取材の対象を探そうとする積極的な姿勢が出てくる。また、単に書く事柄を生活の中から見つけるだけでなく、自分の属する集団をより向上させる目を養うことができる。
- ③ 新聞編集を共同することにより、協調性や連帯感を持たせるだけでなく、編集方針を立て、取材し、記事にまとめ、割付をし、印刷し（清書し）、配布する（掲示する）という具体的な学習をすることができる。
- ④ 新聞の読み手をはっきり想定したうえで、説明的文章や意見文を限られた枠の中へ書く力をつけることができる。

新聞は読み手がいるという前提で書くので、書いたものを友達どうしで読み合う学習が可能である。読んだ後、感想を交流してコミュニケーションの学習もできるだろう。また、新聞は多角的な視点で紙面作りをするので、情報が一面的にならず、情報の受け手にとってはおもしろいものである。このような利点を生かせば、新聞を書いた後、そのことをもとに新聞コンクールや鑑賞会を開くなど、さらに意欲的に取り組めると考えた。

## (4) 新聞スクラップ

国語の単元で「続けてみよう」があり、第四学年では、ことわざや四字熟語、新聞スクラップを継続しながら書く力をつけようと取り入れることにした。

新聞スクラップは、子どもたちが慣れるまで、朝の学習の時間に取り組んだ。記事を読んで内容について要約させ、感想を書くことを家庭学習へ位置づけ、書き慣れることを目的とした。

また、朝の会のスピーチで新聞スクラップを活用して、自分の感想を加えて発表することでさらに意欲を高めたいと考え取り組んでいる。

### 【新聞スクラップの書き方】

- 新聞から好きな記事を選び切り取る。  
(お家の人に聞いてから切り取るようにする。)
- ノートの上半分に新聞記事を張る。
- 見出しにラインを引き、ノートに書き込む。
- 要約した文を書く。  
(よく読んで、いつ・どこで・どうしたが書かれている所をぬき出して書く。)
- 感想を書く。(分かったこと、すごいと思ったこと等を自分の言葉で書く。)

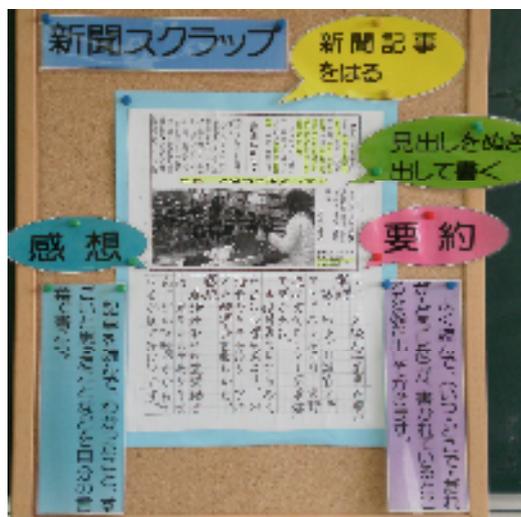
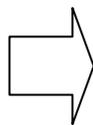


図4 新聞スクラップの書き方例

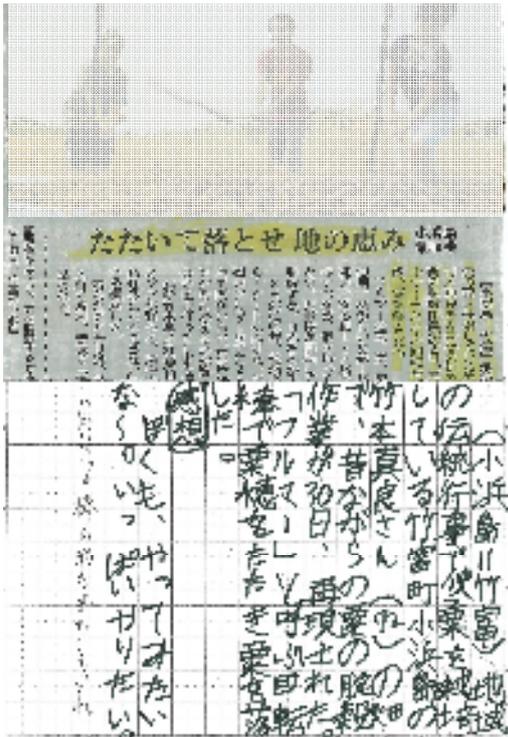


図5 新聞スクラップ (5月) 児童の記述例

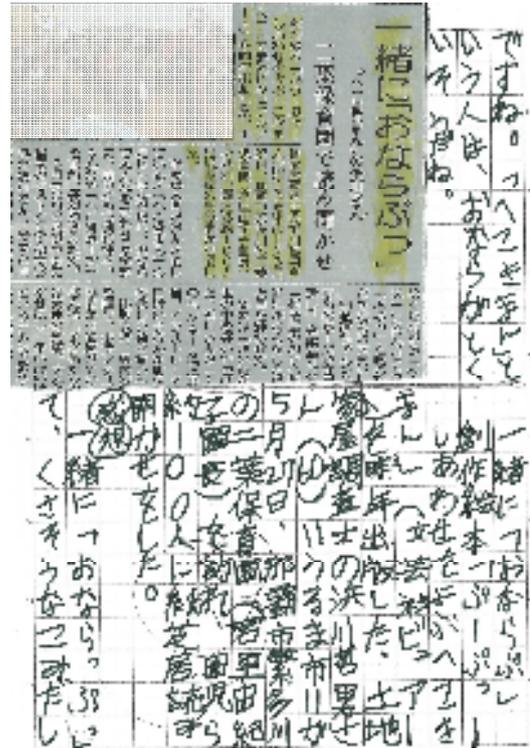


図6 新聞スクラップ (6月) 児童の記述例

新聞記事の内容を要約 (いつ・どこで・何をした) し、それを自ら文章に書けるようになってきた。

しかし、写真を見て「おもしろそう」や「自分もやってみたい」等と、一口感想しか書けなかった。そこで、毎日、教師がコメントを書き励ます中で子ども達も、書き慣れて文章がふくらんできた(図6)。

見出しに注目して記事を選び、文章内容にサイドラインを引きながら読み進め、感想を詳しく書きはじめるようになった。

① 教室掲示

日記や新聞スクラップの書き方、言葉の玉手箱、記述の仕方等をいつでもみられるところに掲示し、意欲の持続や書く手だてとした。



図7 〔語彙を増やす工夫〕

・毎日の日記から良い語彙や語句、慣用語などを取り出して賞賛する。

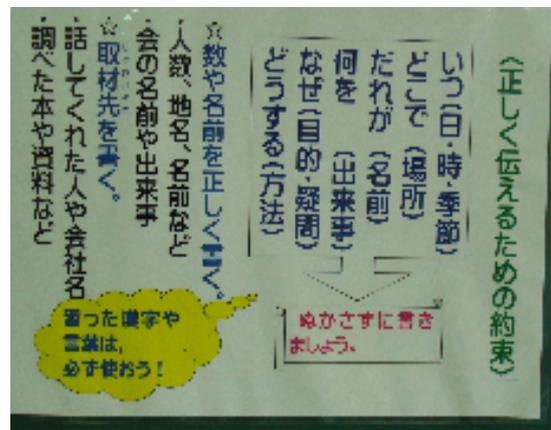


図8 〔要約の仕方〕

・日記を書く視点として、5W1Hを意識させる。



### 3 授業実践

#### (1) 単元名 段落のつながりに気をつけて読もう

教材名 「かむ」ことの力

#### (2) 単元について

##### ① 単元の目標

◎ 文章の構成についての知識を得、全体を展望しながら内容の大体をつかむ方法を知るとともに、咀嚼の役割や歯の健康保持について興味をもつ。

##### ② 単元で身に付けさせたい力

◎ 段落と段落とのつながりを考えながら、文章の中の幾つかの大きなまとまりをとらえることができる。また、大きなまとまりごとの内容をとらえつつ、まとまり相互の関係を理解することができる。(C読むこと イ)

◎ 「はじめ」「中」「終わり」といった文章の中のまとまりのそれぞれの役割を知り、文章を読む際の手がかりとする力をつけることができる。(C読むこと オ)

◎ 体の部分の働きや体について、自分が興味・関心があること、伝えたいことを意識して、本や図鑑から情報を収集し、情報カード(小見出し・要点等)を書くことができる(B書くこと イ)

◎ 文章全体について、段落の役割を理解することができる。(言語事項オ(イ))

##### ③ これまでの学習体験

説明文の型と学習の仕方	段落と段落のつながり方	「始め・中・終わり」の文章構成
<ul style="list-style-type: none"> <li>・第三学年までに学習したいくつかの説明文において文章の「始め」に、問題提起・話題提示部分があることを学んでいる。そして、「答え」にあたる内容を見つけようとして読む学習を繰り返している。</li> <li>・題名や繰り返し出てくる言葉に気をつけて読むこと、また、接続語に気をつけて読むことを繰り返してきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第三学年で「段落」のあり方を知り、一つの段落に一つの事柄が書かれていることを知った。</li> <li>・三年上「ありの行列」では、時間(実験・研究の過程)を追った段落が並んでいた。三年下の「すがたをかえる大豆」では、一つ一つの段落に大豆のさまざまな姿が説明され、並列の関係で並んでいた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験としては、三年「ありの行列」「すがたをかえる大豆」ともに「始め・中・終わり」の構成であったが、それを文章の全体構成としてとらえることはしていない。</li> </ul>

#### ④ 単元について

##### ア 教材観

「かむ」ことの力は、児童にとっては身近で自然に感じているものである。そのために、その仕組みや意味について強く意識している児童は、少ないはずである。特にむし歯との関係、脳との関係、体全体との関係までを意識している児童はほとんどいないであろう。そういった児童にとって、本教材は自らの体や生活を新しく発見する機会になると考えられる。ふだんなにげなく行っていることにも予想以上の複雑なメカニズムが潜んでいるのだということを発見することになる。説明文を読むことで、自分の日常が新しい切り口で見えてくるという経験は、児童のこれからの読書生活にとっても大きな意味をもってくると考える。

また、本教材は「はじめ」→「中」→「終わり」という典型的な説明文の構成をもっており、説明文の一つの典型を学ぶ機会となる。また、段落相互のつながりという点では、一つ一つの段落が、だ液によって飲みこみやすくする、あごの骨・筋肉などを強くする。むし歯を防ぐ、食べ物の量を調節する、脳の働きを活発にするなど、一定のまとまりを持ちつつ、それらが幾つか集まってさらに大きなまとまりを作っている。その要素も新しいものであり、有効な学習の機会を与えてくれる。

##### イ 児童観

アンケート結果(25人)

項目	はい	いいえ	いいえと答えた理由
○国語は好きですか	13人 52%	12人 48%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字が苦手、覚えにくい、難しい。</li> <li>・文章を書くのが苦手。</li> </ul>

○作文や日記を書くことは好きですか。	13人 52%	12人 48%	・頭にうかんでいるのに、どう書けばいいかわからない。 ・時間がかかりすぎる。 ・段落のつけ方がわからない ・漢字をいっぱい書かないといけない。 ・めんどくさい
○読書は好きですか。	21人 84%	4人 16%	・読むのがおそい。 ・読めない字がある。
○発表することは好きですか。	7人 28%	18人 72%	・間違えたら恥ずかしい。 ・緊張する。
○新聞作りは好きですか。	20人 80%	5人 20%	・どうやって書けばいいかわからない。 ・細かい字や絵をかくのが苦手。
○辞書で分からない言葉や漢字を調べますか。	8人 32%	17人 68%	・分からない言葉や漢字は誰かに聞く。 ・そのままにする。

アンケートの結果から、「国語は好きですか」と「書くことは好きですか」の結果を照らし合わせてみたところ、国語が好きな子どもは書くことに自信があり、国語が嫌いな子どもは書くことに苦手意識をもっていることが分かった。つまり、国語が好きであることと得意であること、国語が嫌いであることと書くことが苦手であることは、相関関係にあるということが明らかになった。

また、文章を書くことが嫌いな児童は、「頭にうかんでいるのに、どう書けばいいかわからない」「時間がかかりすぎる」「段落のつけ方がわからない」「漢字をいっぱい書かないといけない」「めんどくさい」などをその理由としてあげている。

書きたい思いや書く内容はあるのに、いざ書き出すと文章が続かず、書くことをいやがる児童が多いことが分かった。思いを自分の言葉で伝えるために、頭の中でイメージしながら書き言葉にする力が必要になってくる。

そこで、何をどのように書けばよいのか、基本的な書き方を指導（5W1H）し、文章構成を意識させながら、楽しみながら書く力をつけるために新聞作りの学習活動を取り入れることにした。

#### ウ 指導観

四年生は、具体的な思考・認識だけでなく、抽象的な思考・認識が少しずつできるようになってくる時期である。そういう時期に、自分自身の体や生活を、日常とは違った新しい角度からとらえ直すことのできる学習は有効である。

第三学年で「段落」の存在を知った。一つの段落には一つの事柄が書かれていることを、読むこと・書くことの両面から繰り返し学習してきている。その次のステップとして、本単元の学習がある。つまり、一つ一つの段落がつながって、少し大きな意味のまとまりを作り、「はじめ」（話題提示）、「終わり」（総括）とともに文章全体を構成することを知ることである。この学習によって、文章全体を見通せる目を持つようになることが望まれる。更に、人間の体に関する図書資料を読んで分かったことや伝えたい内容を情報カードに書くように発展させる。小見出しにその内容が一目で分かるように重要語句を使い書けるようにする。

### (3) 評価

#### 学習指導要領国語科第3学年及び第4学年

- ① 相手や目的に応じ、調べたことなどについて、筋道を立てて話す能力、話の中心に気を付けて聞く能力、進行に沿って話し合う能力を身に付けさせるとともに、工夫をしながら話したり聞いたりしようとする態度を育てる。
- ② 相手の目的に応じ、調べたことなどが伝わるように、段落相互の関係などに注意して文章を書く能力を身に付けさせるとともに、工夫をしながら書こうとする態度を育てる。
- ③ 目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。

(4) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	書く能力	言語についての知識・理解・技能
○「かむ」ことについて興味をもつとともに、そのことから自分の体や生活について見つめ直そうとする。	○段落ごとのつながりに注目しながら文章を読み、大きなまとまりの内容をつかまえている。また、大きなまとまりごとの関係を理解している。	○要点、小見出しキーワードを見つけて書くことができる。 ○自分の興味のあるからだの部分を意識して本や図鑑を選び、情報カードに書くことができる。	○指示語や接続語の役割を理解しながら、段落相互のつながりをつかんでいる。

(5) 単元の指導計画 (12 時間)

次	時	学習目標	学習活動	教師の支援	【 】評価の観点 ( ) 評価方法
一次	1	・「かむ」ことの力の全文を読み、初発の感想を書くことができる。	・題名から想像する「かむ」について知っていることを発表する。 ・教材文を読む。 ・新出漢字の学習 ・感想を書き、発表する。	・自由に連想させ発表させる。  ・黒板に書かれた言葉を参考にさせる。	A：教材文を読み、感想を書き、発表することができる。 B：教材文を読み、感想を書くことができる。 【関・意・態】 (ワークシート観察)
二次	2	・①②③段落を読み、段落の中心となる語や文をとらえて、内容をまとめることができる。	・全文を読む ・形式段落に番号を付ける。 ・①段落に何文あるか調べる。 ・要点をまとめる。 ・②③段落に何文あるか調べる。 ・要点をまとめる。	・一字下がりを意識させる。 ・他の記号と間違わないようにカタカナで印を付けさせる。 ・要点のまとめ方を説明する (一斉指導)	A：段落の中心となる語や文をとらえ要点を書き、発表ができる。 B：段落の中心となる語や文をとらえ要点を書くことができる。 【読むこと】 (ワークシート観察)
	3	・④⑤⑥段落を読み、それぞれの段落の中心となる語や文をとらえて、内容をまとめることができる。	・④⑤⑥段落それぞれの段落に何文あるか調べ、要点をまとめる。	・要点の見つけ方の確認をする。  ・文の数を確認し、一文一文を読みキーワードを見つけさせる。	A：段落の中心となる語や文をとらえ要点を書き、発表することができる。 B：段落の中心となる語や文をとらえ要点を書くことができる。【読むこと】 (ワークシート観察)
	4	・⑦⑧⑨段落を読み、それぞれの段落の中心となる語や文をとらえて、内容をまとめることができる。	・⑦⑧⑨段落それぞれの段落に何文あるか調べ、要点をまとめる。	・要点の見つけ方の確認をする。  ・文の数を確認し、一文一文を読みキーワードを見つけさせる。	A：段落ごとに、中心となる語や文をとらえ要点を書き、発表することができる。 B：段落ごとに中心となる語や文をとらえ要点を書くことができる。【読むこと】 (ワークシート観察)

	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>段落のつながりを考えながら四つのまとまりがわかる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各段落ごとに要点を読む。</li> <li>四つのまとまりに区切る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>重要語句に印を付けさせる。</li> <li>問題提起の段落を確認させる。</li> <li>指示語や接続語に注目させる。</li> </ul>	<p>A：書かれている内容や接続語の役割などから文章を四つのまとまりに分け、発表することができる。</p> <p>B：書かれている内容や接続語の役割などから文章を四つのまとまりに分けることができる。</p> <p>【読むこと・書くこと】 (ワークシート観察)</p>
	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>四つの大きなまとまりのつながりを考え、「はじめ・中・終わり」という文章全体の組み立てを理解することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大きなまとまりに小見出しを考える。(グループ学習)</li> <li>文章構成図を作る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「よくかむとどんないいことがあるでしょう。」と問いかけ段落ごとの要点に注目させる。</li> <li>題名とのつながりのある言葉に着目させる。</li> </ul>	<p>A：「はじめ・中・終わり」の文章構成を知り、組み立て図を作ることができる。</p> <p>B：「はじめ・中・終わり」の文章構成を知り、組み立て図に書き入れることができる。【書くこと】 (ワークシート観察)</p>
	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>要約の仕方がわかり要約文を書くことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>要約の説明を聞き、要約文を書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各段落の大切なところ(要点)を読もう。</li> <li>文章構成図を参考にさせる。</li> </ul>	<p>A：要約の仕方がわかり要約文を書き、発表することができる。</p> <p>B：要約の仕方がわかり要約文を書くことができる。【書くこと】 (ワークシート観察)</p>
三次 発展	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>人間の体に関する図書資料から関心のある体の本を選び、じっくり読むことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の関心や疑問に沿って図書資料を探し、読んでみる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書館司書の協力で、教室に図書資料コーナーを設置しいつでも手に取れるようにする。</li> </ul>	<p>A：人間の体に関する図書資料から関心のある体の本を選び、じっくり読むことができる。</p> <p>B：人間の体に関する図書資料から関心のある体の本を選ぶことができる。</p> <p>【読むこと】観察</p>
	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>人間の体に関する図書資料を読んで分かったことや伝えたいことを見つけ付箋紙を張ることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>読めない漢字や言葉は辞書で調べる。</li> <li>図書資料を読みながら、分かったことや伝えたいことに付箋紙をはる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>読めない漢字や分からない言葉はすぐに調べられるように辞書を用意させる。</li> <li>読みながら付箋紙をはるようにながらす。</li> </ul>	<p>A：人間の体に関する図書資料を読んで分かったことや伝えたいことを見つけ付箋紙を張り、発表することができる。</p> <p>B：人間の体に関する図書資料を読んで分かったことや伝えたいところを見つけ付箋紙を張ることができる。</p> <p>【読む・書くこと】観察</p>
	10 本時	<ul style="list-style-type: none"> <li>人間の体に関する図書資料を読んで分かったことや伝えたい内容を情報カードに書き小見出しを</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報カードに読み取った内容を書く。</li> <li>情報カードに書いた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報カードの書き方を掲示資料で、確認する。</li> <li>そのまま書き写すの</li> </ul>	<p>A：人間の体に関する図書資料を読んで分かったことや伝えたい内容を情報カードに書き小見出しを書</p>

検 証 授 業	出しを書くことができる。	内容の中で大事な部分に線を引いたり、必要のない部分を二重線で消したりして、情報をまとめる。  ・全員が一枚の情報カードを書き終わったところで情報内容を紹介し合う。	ではなく題名とつながりがある言葉を意識させる。 ・内容を書くスペースがせまいので、短い文でまとめるようにさせる。 ・「かむ」ことの力の文章構成の表を教室掲示し、参考にさせる。	き、発表することができる。 B：人間の体に関する図書資料を読んで分かったことや伝えたい内容を情報カードに書き小見出しを書くことができる。 【書くこと】 (情報カード観察)
11 ・ 12	・新聞作りをしよう	・学校の事を家族に知らせるための記事を集め新聞を作る。	・学校の良い所を見つけ情報カードに書く。 ・行事(学校・学習・保健)やクラブ活動、当番活動、等をマップで考えさせる。	・情報カードを活用する事ができる。 【書くこと】

(6) 本時の指導(検証授業)

① 本時ねらい

人間の体について図書資料を選んで読み、必要な情報かどうか選択し、情報カードにまとめ小見出しをつけることができる。

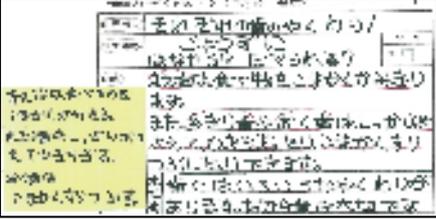
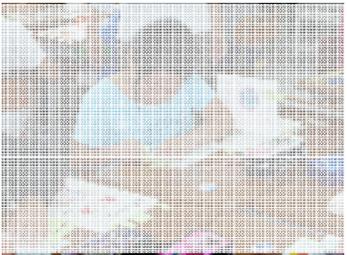
② 授業仮説

小見出しを書く場において、情報カードや付箋紙を活用させることによって、集めた情報の中からキーワードを見つけることができ、小見出しをつけることができるであろう。

③ 準備

掲示資料、情報カード記入例、ワークシート、体に関する本・図鑑

④ 本時の展開(10/10)

過程	学習活動	教師の支援及び留意点	【 】評価の観点 ( ) 評価方法 ○準備
導 入	1. 前時をふり返る。	○「かむ」ことの力の学習をふり返る。 ・音読をする。 ・小見出しの書き方を確認する。	◇かむことのいいところを 発表できる。【関・意・態】 ○掲示資料
展 開	2. めあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">人間の体について伝えたいことを情報カードに書き、小見出しをつけよう。</div> 3. 情報カードの書き方を知る。 4. 付箋紙を付けたところを開き、伝えたい内容を情報カードに書く。 (グループ学習) 5. 伝えたい内容が一目で分かるように小見出しを書く。 ・線を引く。 ・○で重要語句を囲む。	○全員で読んで確認する。  ○「情報カードの書き方」を提示資料で確認する。(教師の事例を掲示) ○そのまま書き写すのではなく、内容をまとめて書きます。 ・題名とつながりのある言葉を見つけよう。 ○内容に書いた大事なところに線を引いたり、○で囲んだりして、短くまとめて小見出しを書く。 	◇付箋紙を付けたところを読み返している。 【読むこと】 ○掲示資料  ◇小見出しを書くことができる。 【書くこと】 (情報カード観察)

	6. 情報カードが書けたら、グループで発表の練習をする。	○発表の流れを掲示する。 ・発表します ・これで、発表を終わります。	◇発表の練習をすることができる。 (観察)
まとめ	4. 次時のめあてを確認する。	○「学級新聞を作ろう」で学校の情報を集める時も情報カード使うことを知らせる。	

⑤ 評価 伝えたい内容を情報カードに書き、小見出しを書くことができる。

## Ⅶ 研究仮説の検証

1 小見出しをつける手立てとして、情報カードは有効であったか。

各自で情報カードを活用させ小見出しをつけさせた。

結果が(図 12)の通りである。各自が選んだ図書資料の中から内容を要約し、本文を読み、その中で「メラニン色素」「むし歯」という何度も出現している言葉をキーワードとし小見出しをつけた児童が、17人だった。また、要約した内容から「だえきは口の中のガードマン」といった液の役割を擬人化して、アレンジする児童も見られた(図 13)。

このように、18人の児童が内容の要約ができ、それをもとに小見出しをつけることができていた。

また、できると評価した児童においても、小見出しをつけはできているが、「骨は大切」「目は大切」といった小見出しが5人いた。大切であることには違いないが、大まかすぎる。

キーワードを見つけることができていながらもかかわらず小見出しに活かすことができていなかった児童が1人。さらに、継続指導していきたい。

説明文「かむ」ことの力の学習後に、情報カードを使い内容に要約させ、キーワードにラインや○で囲む学習に取り組んだ結果、23人の児童が、小見出しをつけることができた。

情報カードの活用は、小見出しをつける手立てとして、有効であったと考える。それに伴い書く力が付いてきた。

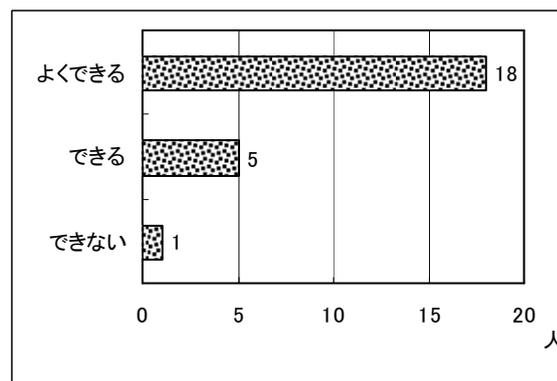


図 12 小見出しをつけることができたか

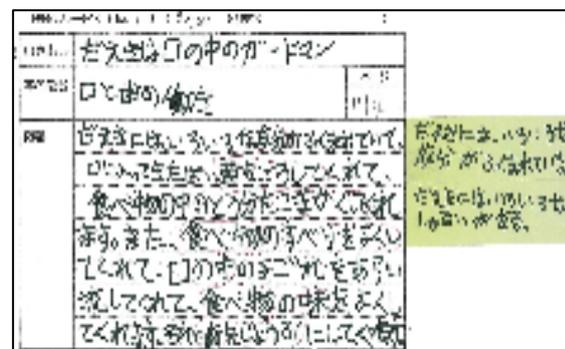


図 13 情報カード(口と歯の働き)児童の記述例

2 新聞作りにおいて、情報カードの活用は有効であったか。

1回目(5月)2回目(6月)に作成させた新聞の分析である。

1回目(5月)の新聞は、情報カードを活用せず書かせた結果である。2回目(6月)の新聞は、国語の学習後、新聞作りでも情報カードを活かした結果である(図 14)。

1回目の新聞で、要約して記事を書くことができていた児童は、わずか6人であったが、2回目は、情報カードを活用することによって、書く内容を要約することができた児童が22人になった。また、要約することによって伝えたい事柄がはっきりしてくるため、文章の構成もすっきりと整理できている児童が17人いた(図 14)。

著しく変化したのは、小見出しである。学習の中で「小見出しをつけるコツ」の手立てを提示し、学校行事に対し

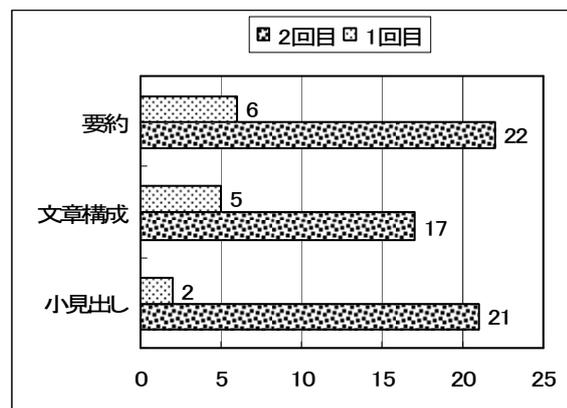


図 14 新聞内容の分析

小見出しを付けさせた。その内容として、次のような、小見出しが出された。「いろいろしらべよう」「あせった辞書引き大会」「ドキドキした目の検査」「おんぶされた1年生」「元気に行進」「全力を出した実力テスト」「やる気アップ」と思わず読者の目に留まるような小見出しを書くことができる児童が21人いた(図15)。4人の児童には、さらに継続指導していきたい。

このように、新聞作りにおいて、書く事柄の内容を要約したり、小見出しをつけたりする活動において、情報カードの活用は、有効であったと考える。

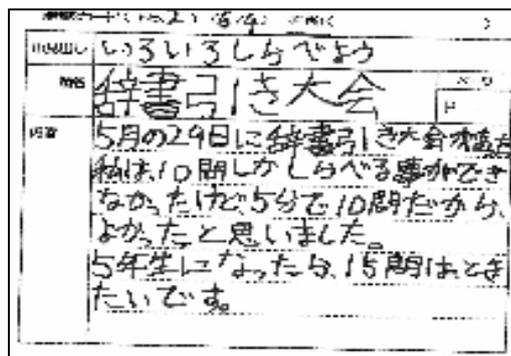


図15 情報カード(2回目) 児童の記述例

ゴールデンウィーク 新聞	No.1 発行日	5月1日(木)	赤ちゃんかうまれました。女の子でした。病院に赤ちゃんを見に行くといっこかベランカに出で赤ちゃんを見ていました。やいば病院はベランカからしか、赤ちゃんが見れない。そうです。わたしも、ベランカに出で赤ちゃんを見ました。とてもかうれい女の子でした。
5月1日金曜日遠足が終わって家に帰って、なは空へ行きましました。	No.1 発行日	5月1日(木)	赤ちゃんかうまれました。女の子でした。病院に赤ちゃんを見に行くといっこかベランカに出で赤ちゃんを見ていました。やいば病院はベランカからしか、赤ちゃんが見れない。そうです。わたしも、ベランカに出で赤ちゃんを見ました。とてもかうれい女の子でした。
こひこうぎの中	No.1 発行日	5月1日(木)	赤ちゃんかうまれました。女の子でした。病院に赤ちゃんを見に行くといっこかベランカに出で赤ちゃんを見ていました。やいば病院はベランカからしか、赤ちゃんが見れない。そうです。わたしも、ベランカに出で赤ちゃんを見ました。とてもかうれい女の子でした。
では、石垣はど	No.1 発行日	5月1日(木)	赤ちゃんかうまれました。女の子でした。病院に赤ちゃんを見に行くといっこかベランカに出で赤ちゃんを見ていました。やいば病院はベランカからしか、赤ちゃんが見れない。そうです。わたしも、ベランカに出で赤ちゃんを見ました。とてもかうれい女の子でした。
んな所なのかなあ	No.1 発行日	5月1日(木)	赤ちゃんかうまれました。女の子でした。病院に赤ちゃんを見に行くといっこかベランカに出で赤ちゃんを見ていました。やいば病院はベランカからしか、赤ちゃんが見れない。そうです。わたしも、ベランカに出で赤ちゃんを見ました。とてもかうれい女の子でした。
とドキドキワクワク	No.1 発行日	5月1日(木)	赤ちゃんかうまれました。女の子でした。病院に赤ちゃんを見に行くといっこかベランカに出で赤ちゃんを見ていました。やいば病院はベランカからしか、赤ちゃんが見れない。そうです。わたしも、ベランカに出で赤ちゃんを見ました。とてもかうれい女の子でした。
してました。石垣	No.1 発行日	5月1日(木)	赤ちゃんかうまれました。女の子でした。病院に赤ちゃんを見に行くといっこかベランカに出で赤ちゃんを見ていました。やいば病院はベランカからしか、赤ちゃんが見れない。そうです。わたしも、ベランカに出で赤ちゃんを見ました。とてもかうれい女の子でした。
についたらもう夜	No.1 発行日	5月1日(木)	赤ちゃんかうまれました。女の子でした。病院に赤ちゃんを見に行くといっこかベランカに出で赤ちゃんを見ていました。やいば病院はベランカからしか、赤ちゃんが見れない。そうです。わたしも、ベランカに出で赤ちゃんを見ました。とてもかうれい女の子でした。

図16 児童の新聞 記述例(1回目)

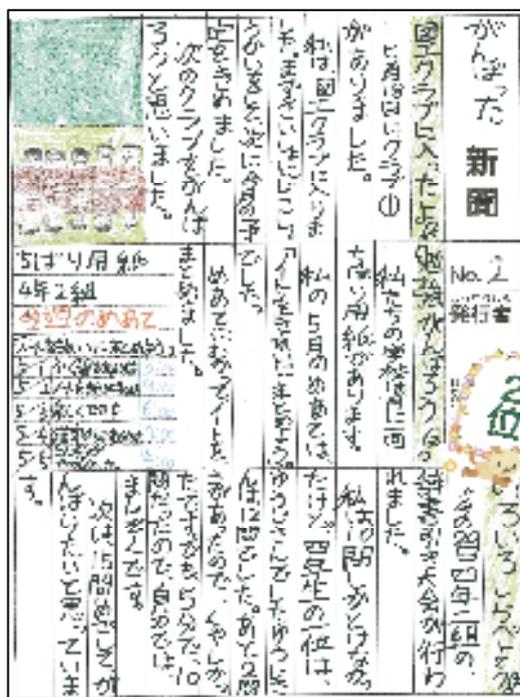


図17 児童の新聞 記述例(2回目)

- 5月の休み明けに、ゴールデンウィーク新聞を作った。5月1日の遠足後、石垣に旅行したことを思いつくままに書いている。
- 文章構成や小見出し、絵や図などが、書かれておらず、読みやすい工夫がなされていない。

- 文章構成「はじめ・中・終わり」が、書けている。
- 小見出しを読んだだけで、記事の大体が分かるように工夫している。
- 絵やちばり用紙(家庭学習チェック)の表を書き込んでいる。学級新聞コンクールでは2位となった。

### 3 児童の意識の変容

#### (1) 書くことについてのアンケートの分析(記述式)(児童の声)

- ① 書くことが好きになった(88%)
  - ・感想を書くのが楽しい。
  - ・おもしろい記事が見つかったとき書きたくなった。
  - ・漢字が書けるようになったらほめられた。
  - ・新聞を読むことが多くなった。
  - ・新聞に投稿してうれしかった。

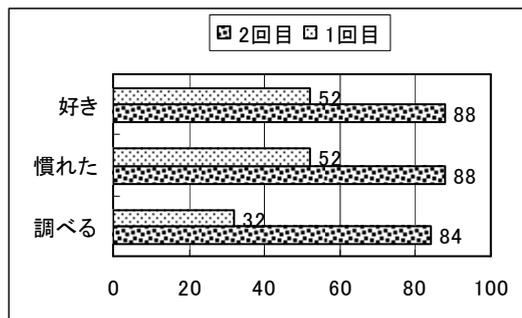


図18 書くことアンケートの分析

- ・友達の作文が新聞にのったので、自分もやりたいと思った。
- ② 書くことに慣れた (88%)
  - ・「日記で、いつ・どこで・だれと・何を・どうしたという書き方が分かったので、日記を書くスピードがはやくなり楽しくなった。」
  - ・「新聞スクラップを書くときは、見出しと写真しか見なかったけど、今は内容をちゃんと読んでから感想を書くようになった。」
  - ・はじめ・中・終わりが分かったので書きやすい。

③ 調べるようになった (84%)

- ・家庭学習や新聞スクラップで分からない漢字や言葉が出たとき調べる。
- ・テレビのニュースで分からない言葉を聞いたり、見たりしたとき知りたくなった。

これは、本研究で日常的な取り組みとしての日記指導や新聞スクラップの活動が児童の意欲へとつながっていったと考えられる。児童の中で作文に対する意識が変わることで、読むことにも抵抗なく活字を楽しむ傾向が出てきた。テレビや新聞などメディアから発信されている情報に関心を持ち、自分なりに理解したいという意識が出てきたように思われる。また、新聞に掲載され自分の文章が他に読まれたり、ほめられたりすることで自信を持つようになった。

このように、児童の「書くこと」についての意識が変容し、書くことへの抵抗感が少なくなったと思える。「読むこと」「書くこと」の基礎的・基本的な知識・技能が定着しつつあると考える。本研究における「書くこと」についての手立ての結果だと思われる。

## VIII 研究の成果と今後の課題

### 1 研究の成果

- (1) 「読むこと」「書くこと」の指導過程で情報カードを活用することによって、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図ることができた。
- (2) 新聞スクラップ活動を通して、新聞を読むことで、見出しについて興味を持つことができ、日記の題名を工夫して書けるようになってきた。
- (3) 記事にしたい項目を選択し情報カードを活用して整理させることによって、新聞を書くことができた。
- (4) 書くことを楽しみ、新聞に投稿するようになった。

### 2 今後の課題

- (1) 情報カードを活用し小見出しを書けるようになったが、要点やキーワードを活かして書けていない児童が数名いたので、さらに指導の充実をめざす。
- (2) 日記や作文を三段落構成で書けるようになったが、既習の漢字や慣用句等を活かしていない、さらに語彙を増やす取り組みが必要である。
- (3) PISA型読解力の理論を深め、授業実践をさらに充実させる。

#### 〈参考文献〉

- |                          |          |       |
|--------------------------|----------|-------|
| ・文部科学省『読解力向上プログラム』       | 文部科学省    | 2005年 |
| ・文部科学省『小学校学習指導要領解説 国語編』  | 文部科学省    | 2008年 |
| ・下田好行『活用力を育てる国語授業小学4年』   | 日本標準     | 2008年 |
| ・瀬川榮志『要約力を磨く説明文の指導』      | 明治図書     | 2008年 |
| ・白石範孝『書く活動が確かな読みの力をつける』  | 学事ブックレット | 2008年 |
| ・藤田伸一『論理的思考力を育てる説明文の授業』  | 学事ブックレット | 2009年 |
| ・成家好亘『板書で見る全単元の授業のすべて4年』 | 東洋館出版社   | 2009年 |